

## D スタイルの長所を引き出す

著者：Robin Kellogg (Instructional Designer and Trainer, John Wiley and Sons)

(転載、引用可。ただし出典を明記して下さい。)

チームには、時に予期せぬ危機が訪れます。たとえばメンバー同士の対立です。少数のキーパーソンの関係がうまくいかないだけで、部門全体が機能不全に陥ることもあります。チームを崩壊させかねないこういった葛藤劇は、どの業界のどの組織でも毎日繰り返されています。しかし、必ずしもそうなることばかりではありません。自分にとって、そして仲間にとって何が行動の動機となるか、何がストレスとなるか、何が目標の達成へと駆り立てるかを理解することで、衝突は減り、より良い協力関係、より良い人間関係、そしてより健全な職場環境が得られるのです。そこで役立つのが Everything DiSC®ワークプレイスです。

Everything DiSC® は、個人の行動選択における好みや傾向を測定するアセスメントツールです。この好みや傾向が、それぞれの職場での体験を左右するのです。1人ひとりのアセスメントデータに基づいてカスタマイズされたレポートは、個人のスタイルについてたくさんの情報を提供します。この個別のレポートは、4つの DiSC® スタイルの類似点や相違点を説明します。また、さまざまなスタイルを持った同僚とより有意義につながり、無駄な緊張を減らして効率的に働き、問題を解決して組織により良く貢献するための、鍵となる対策を見つけ出します。

### D スタイルをより深く知る

Dは『**主導傾向**』を表します。Dスタイルのチームメンバーの長所を引き出すために、まずはその強みを徹底的に理解しましょう。この特性を持つ人は、チームに大変な貢献をしてくれるのです。

Dスタイルの人は志気が高く、意志が強く、『**成果**』に向かって奮闘する過程では常に新しいチャレンジと可能性を求めます。評価され、成功したいという欲求が動機付けとなり、目的を邪魔する障害をものともしません。また、『**行動**』に高い優先順位を置いています。そして大胆なアイデアを断固として推し進め、素早く、力づくで目標を達成しようとする傾向があります。ですから、ペースの速い環境で大いに力を発揮します。

自立心が旺盛なDスタイルの人は、『**挑戦**』にも高い優先順位を置きます。結果をコントロールすることがとても重要だと考えるので、賛成できないアイデアに対して、また状況がは

つきりしない時には、しばしば懐疑的なアプローチをとります。また、組織の中ではよく尊敬されます。可能性や挑戦に際しては率直でビジネスライクなアプローチをとり、約束は必ず果たす人だと考えられます。いいことばかりですよ？

D スタイルのメンバーの強みが、仕事を成し遂げるうえで欠かせないのは事実です。しかし、この特性を持つ人はとても鈍感で強引なこともあります。勝つことへの執着が強くと出すぎると、ウィン-ウィンよりもウィン-ルーズ（勝つか負けるか）という状況を作ってしまう。また、プレッシャーのかかる状況では、他の人に厳しい要求をしたり、せっかちになったりすることがあります。Dスタイルのポジティブな行動を引き出す動機となるもの【成果】、【行動】、【挑戦】これらは同時に他のスタイルとの不要な衝突を起こす種ともなります。たとえば反対の性質を持つSスタイルの人は、Dスタイルの同僚と共同で効率的に働くことを特に困難だと感じるかもしれません。Dスタイルの性質を強く持つ人が二人いる場合も、互いに譲らず相手の欲求を受け入れようとしない場合には衝突することになります。

### スタイルを知ることが鍵

まとめ： さまざまな能力を持つメンバーから最良のものを引き出すには、自分と他人について知ることが鍵となります。人は自分と他の人の欲求、やる気をもたらすもの、ストレスの元となるもの、そしてそれぞれの強みをより深く知ること、実りある人間関係やより良い職場環境を作るよう、自分の行動を適応させることができるようになります。Everything DiSC ワークプレイスのソリューションは、組織内の役職や役割にかかわらず、すべての人にとって自分のスタイルを理解する第一歩となります。そして自分とは違う優先順位、行動選択における好み、他の人が職場に持ち込む価値観を理解し、他の人のスタイルを受け入れるにはどうすればいいかを学ぶきっかけとなるのです。